



鳥羽市新エネルギービジョン



鳥羽市

「はじめに」



本市は、第四次鳥羽市総合計画における基本理念として「住んでいて良かった」「住んでみたい」「行ってみたい」という3つの想いを掲げております。すべての市民が豊かで安心して暮らすことができ、まちのいたるところで生き生きとした「笑顔」にであえること、そして、豊かな自然環境や長年培われてきた貴重な文化を活かし、本市を訪れる人にも「感動」にであっていただけるまちづくりをめざしつつ、市の将来都市像を「笑顔と感動にであう鳥羽」としてまちづくりを進めております。

このような中、21世紀地球温暖化防止対策の国際的取り組みの一端として、経済産業省・NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の支援を得て、市としての新エネルギー導入の指針を示す「鳥羽市新エネルギービジョン」を策定いたしました。

この新エネルギーとは、太陽光や風力等の自然エネルギー、あるいは普段の暮らしや産業活動の中で捨てられている食用油などから得られるエネルギーのことをいいます。

本市が、この新エネルギーの導入に取り組む理由は2つあります。

ひとつは、「地球規模の環境問題への対応」です。

私たちが暮らしている鳥羽市は豊かな自然環境に恵まれていることもあり、世界規模での環境問題を身近に感じるものが少なかったのではないのでしょうか。

私たちの生活や産業活動は、石油などの化石燃料の消費によって支えられてきていますが、それに伴って排出される二酸化炭素等の温室効果ガスの影響で急速に地球温暖化が進行しています。このため平成17年2月16日、各国が温室効果ガスの削減目標を設定し、積極的に地球環境の保全に取り組むこととした「京都議定書」が発効されました。

この中でわが国も、温室効果ガス全体の排出量を2008年から2012年の平均値で、基準年となる1990年に比べて6%を削減するという約束をしています。

そして、もうひとつの理由が「新エネルギーによる産業振興」です。

本市の特性を活かした新エネルギーの導入を促進することで、新しい産業の創出や雇用拡大の可能性などを、本ビジョンの中で示していきたいと考えております。

最後になりましたが、本ビジョンの策定にあたり、多大なご尽力をいただきました三重大学工学部前田教授をはじめ、策定委員の皆様、アンケート調査にご協力いただきました市民の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、新エネルギーの導入推進に向けより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成18年2月

鳥羽市長 木田 久主一